

白耳義に於ける鐵鋼業の狀況 其他に關する取調概要

在アンヴェルス岸領事報告

一、鑄鐵爐數及鐵鋼產額 (單位噸)

| 一ヶ月平均產額 | 鑄鐵爐數 | | 鐵鋼產額 | | | |
|---------|------|-------|--------|--------|--------|--------|
| | 粗製 | 精製 | 粗製 | 精製 | 粗製 | 精製 |
| 一九一三年 | 基 | 銑鐵 | 粗鋼 | 精製鋼 | 精製鐵 | 精製鐵 |
| 一九二一年七月 | 四 | 四、三〇〇 | 二四、九〇〇 | 三、一〇〇 | 八、九〇〇 | 二〇、九〇〇 |
| 比 較 | 減 | 四〇 | 一六、七〇八 | 一七、六二〇 | 二〇、四一五 | 一五、九七二 |

一、鐵鋼の商況、海外の注文皆無且獨逸品との競争上悲境に陥りたるため營業者は對策として價格を下げ或は直接取引方法にて外國の注文を得ることに努め又政府は海外貿易保護獎勵のため「輸出保證法」を發布せり。

一、原料品、鐵鑛及骸炭は主として外國より輸入し石炭のみ内國產を使用す。

一、勞 銀

| 職 工 | 勞銀(日額) | | 邦貨換算 |
|--------|--------|-----------|------|
| | 日額 | 法郎 | |
| 鐵 工 場 | 二〇—四〇 | 三、二二—六、四三 | |
| 其他の労働者 | 一九—二〇 | 三、〇五—三、三二 | |
| 坑内鑛夫 | 二四—二五 | 三、八六—四、〇二 | |
| 坑外労働者 | 一八—二〇 | 二、八九—三、二二 | |

一、神戸及横濱行棹、梁、薄板等は一噸(一、〇〇〇疋)に付五七志六片(邦貨換算二一圓五六)なり

運賃先拂の場合には運賃百分の五を割戻し又積荷人に割戻として定期間の後前記運賃の一分を戻す。

邦貨換算は正金銀行外國爲替相場表 (八月一日)に據る

一、白耳義に於ける鐵鋼業の狀況概要

千九百十三年當國に於ける鑄鐵爐の數五十四なりしが戰時中の破損等により修理中のもの及び昨年來の小恐慌により中

止せるものを合し三十に達し本年七月作業中のもの十四基に過ぎず内エノー地方にあるもの六、リエージュ地方にあるもの五、其他にあるもの三にして戰前戦後の個數及び生鐵、生鋼の毎月平均生産高等は別表第一表の通りにして戦爭前後に於ける毎月製鋼高等は別表第二表の如し。

其後海外の注文來らず他方低廉なる獨逸品との競争等ありて益々悲境に陥りつつありし當國鐵鋼商況は、此頃支那及び西班牙等より汽罐車及軌條等の注文ありたるも未だ以て商勢挽回に資するに足らず、營業者は難局對抗の爲或は製品の價格を低廉ならしめ、或は第三者を介せずして直接取引の方法等により外國の注文を得るに努力し居るあり。又最近當國政府にて海外貿易保護獎勵の爲發布せる輸出保證法は若干時局緩和の效を奏すべしと期待せらる。

二、重要工場に使用する原料

一、原料品たる鐵鋼、石炭及び骸炭の内鐵鑛及び骸炭は主として外國より輸入し石炭は内國產を使用する狀況なるが内

a、鐵鑛はルクセンブルグ、佛國アルサス、ローレン、瑞典及西班牙等より輸入し其價格硫化鐵鑛にて含鐵量四割八分乃至五割のもの白國內停車場渡にて一噸(千疋)に付最近十四片(十四志?)見當の相場なりとの事なるも鑛石の質含鐵量等により價格に相違あること又需要供給關係により市價に變動を生ずる事等は勿論なりとす。

西班牙産のものにて西班牙ビルバオ港船渡にて含鐵分量

五割二分乃至五割四分半のもの一噸に付二十八ベセタ

(一〇圓九二)乃至三十ベセタ(一一圓七〇)なりと言ふ。

b、石炭の價格別表第六表の如し。

c、該炭の價格左の如し但し昨年八月一日の價格にして自國內停車場渡なり。

| | | | |
|----|------------|--------|---------|
| 種別 | 洗 骸 炭 | 一四五、〇〇 | (二三・三一) |
| | 壓碎洗骸炭 | 一七〇、〇〇 | (二七・三三) |
| | 半洗骸炭 | 一〇八、〇〇 | (一七・三六) |
| | 壓碎骸炭 | 一三三、〇〇 | (二一・三八) |
| | 普通骸炭 | 九五、〇〇 | (一五・二七) |
| | 壓碎骸炭 | 一二〇、〇〇 | (一九・二九) |
| | ペソト骸炭 | 九〇、〇〇 | (一四・四七) |
| | 壓碎半洗骸炭 | 一三二、五〇 | (二一・三〇) |
| | 骸 炭 | 二五、〇〇 | (四・〇二) |
| | 粉 炭 | 六〇、〇〇 | (九・六五) |
| | 特殊洗骸炭アグラツプ | 一五〇、〇〇 | (二四・一二) |
| | 壓碎特殊洗骸炭 | 一七〇、〇〇 | (二七・三三) |

ロ、勞銀は大約左の如し。

| | | |
|-------|--------|-------------------------|
| a、鐵工場 | 職 工 | 一日、二〇——四〇法(三・二二——六・四三圓) |
| | 其他の勞働者 | 一日、一九——二〇法(三・〇五——三・二二圓) |
| b、石炭山 | 坑内 鑛夫 | 一日、二四——二五法(三・八六——四・〇二圓) |
| | 坑外勞働者 | 一日、一八——二〇法(二・八九——三・二二圓) |

ハ、能率に關しては目下取調中
三、平和後時局對應策として同業者間に講究實施せられたるものあるを聞かず。
四、(a)、市場に於ける鐵及び鋼の價格の變動は別表第三表の如し(b)戰前千九百十三年に於ける輸出入の數量及び價格を戰後稍々常態に復歸し始めたる千九百二十年に比するに別表第四、五表の如し。

五、銑鐵及び鋼材の在庫高は目下殆んど皆無の姿なりと言ふ。

六、神戸横濱行棒、梁、薄板等は一噸(千疋)に付五十七志六片にして是より百分の一半(是は英噸は一噸千十五疋なるを當國にては、千疋を一噸に計算する關係上より生ずる差なり)を控除し更に運賃割増として右運賃の百分の十を加算し運賃を當港にて先拂の場合には前記運賃の百分の五を割戻し又積荷人には割戻として定期間の後前記運賃の一割を戻すと言ふ。
又軌條の場合には運賃五十五志にして之に加減する條件は前掲棒等の場合と同じ。

第一表 鐵鋼粗製品產額

| | | | | |
|---------|-----|-------|---------|---------|
| 一九二一年七月 | 高 爐 | 操業高爐數 | 銑鐵產額 | 粗鋼產額 |
| エ | 六 | | 二一、四〇〇 | 一〇、三九〇 |
| リエーヂユ | 五 | | 一六、三四〇 | 九、三七〇 |
| 其他の州 | 三 | | 七、五九〇 | 四、四三〇 |
| 全 國 | 一四 | | 四五、三三〇 | 二四、一九〇 |
| 一九二一年六月 | 一八 | | 六八、五一〇 | 四九、二三〇 |
| 一 | 二一 | | 七五、七九〇 | 五七、九五〇 |
| 二 | 二二 | | 九六、二三〇 | 一〇三、一四〇 |
| 三 | 二四 | | 一〇六、三六〇 | 九一、二四〇 |
| 四 | 二六 | | 一〇五、三九〇 | 九三、三一〇 |
| 五 | 二六 | | 一一二、三三〇 | 一一四、三六〇 |
| 一九二〇年 | 二八 | | 九三、三三〇 | 九九、三六六 |
| 一九一九年 | 一三 | 各月平均 | 二〇、八八一 | 二六、八二二 |
| 一九一三年 | 五四 | | 二〇七、〇五八 | 二〇〇、三九八 |

第二表 鐵鋼精製品產額

